モンブラン・マッターホルン１７日間

イーストツアー　　白沢光代

7月30日（火）晴

男女４人ずつの参加者８名、シャモニまで一緒の三島山岳会の５名、チューリッヒまで一緒の北海道からきた２名、添乗員の二之宮さんの計１６名が成田から大韓航空でソウルにむかった。ソウルでかなりの人を乗せ日本の上空をへて、フランクフルトへ。ここは１３時間かかる。さらにチューリッヒまで１時間。タクシーでホテルへ。

7月31日（水）曇時々雨

マイクロバスで、シャモニへ。車窓の風景は北海道に似ているがスイスに近づくと、氷河の山が出てき、５時間程でついた。ホテルプリオレにチェックイン後、近くのレストランで昼食。

夕方、モンブランの全装備を持ってロビーに集合。イーストツアーの駐在員兼ガイドの山崎祐和氏はアイゼン、ピッケル、ハーネス、靴、シャツ、ズボン、帽子、手袋、サングラス、ヤッケまで並べさせた。

8月1日（木）晴れ時々曇り　高度順化

１０時に高度順化として企画されたオプションのバレ・ブランシュの氷河のトラバースに出発。

前夜、「ガイドつきのパーティの後から来るのは、何かあった時に見殺しにできないし、迷惑です。」とはっきり言われた香取さんは、一人で８時に出ていった。後で、彼はクレバスに首まで落ちたけど、もがいて抜けられたと話していた。

予約してあたったけど、切符が早く買えただけとかでかなりロープウェイで待たされた。

山頂駅で、アイゼンを付け、柳原さんをトップに、ラストはガイドの山崎さんで７人がザイルに繋がれる。（東京の本社からの連絡では、希望者は３人だったと、ガイドは１人しか用意されていなかった。）氷河への降り口は細い雪稜で、ほとんどがベタッとした春山の雪だった。日当たりが悪くて雪が固まっていない所は少し怖かった。

氷河に下りてしまうと、トップは山崎さんに変った。目的地のイタリア側はガスの中、エルブロンネへのロープウェイは動いていない。モンブラン・ド・タキルやグランド・ジョラスは初めはよく見えていた。行く手にガスが押し寄せてきて、行動は中止となり、のんびりと持ち合わせの行動食を分け合って食べた。チョコ、ヨーグルト、バウンドケーキ、チーズなど。夜のミーテングで、「皆さんは行動食の持ち過ぎです。」と山崎さんに言われてしまった。

再びロープウェイの駅に戻る。登りは簡単だった。中間駅に降りると、ハイキングの世界。歩いてシャモニまで降りてもいいし、付近を散歩しても良いと許可を得て、全員ロープウェイから離れた。羊がいて、テントもあって、ツーリストもいて、明るいコースである。全員で３時間かけてのんびり下った。最後の１時間は針葉樹の樹林帯で、少し獄ました。

8月2日（金）晴　ハイキング

１６時ロビーに集合と言われたので、８時の登山電車で、佐藤さんと二人でモンタンベールへ。電車から降りた人はほとんどが、メールドグラス氷河へ行き、ハイキングを始めたのは、太めの男性と我々二人だけ。シャモニ針峰群の下を行く岩の多いコースで幅１ｍぐらい緩やかな道が続く。相棒の佐藤さんが何か動物を見付けた。外国人が「マーモット」と教えてくれた。ロープウェイの中間駅プラン・ド・レギーユまで歩き、昨日使わなかった切符で下りる予定だ。地図を見て対岸の山が赤い針峰群だと分かったので、腰を下ろしてゆっくり観察。ラック・プランのコースはあれだね、楽そうだ。

このコースではすれ違う人が多かった。セーターを着た人もいれば、上半身裸の人もいる。日本

人にもかなり会った。シャモニにおりてから、ホテルの近くのレストランでサービスランチ、チーズ・ホンディユを頼む。おいしいけど、しつこいのであまり食べられない。

雪山登山の姿に変えて、１６時ロビーに集合。昨日のコースをコスミックの小屋まで。登山者は１７時まで乗れないとかで、かなり待つ。それにガイドも来ない。添乗員の二之宮さんに見送られ出発。氷河へ降りるのはしっかりトレースが出来上がっていて楽だった。去年出来たばかりという小屋はきれいだった。一行８人＋ガイド４人の計１４人は１つの部屋が貰えた。１６人用の二段ベットである。ガイドがピッケルのベルトをはずせと言う。頻繁に持ち替えるので邪魔だというのである。私のは体に付けるタイプだったけど、外した。夕食待ちの間テラスで登るコースをみる。

７時からの食事は山小屋としては豪華だった。スープ、豚のソティ、インゲン、ニンジンの煮たもの、マッシュポテト、デザートのケーキ。パンとバタージャムは好きなだけ。お酒はみな自重し、飲み物は水だった。

[redacted]晴　モンブラン登山

１時半起床。トイレが５個のうち２個しか使えず混む。１時４５分朝食。紅茶、パン、チーズ、ジャム、バター。熟睡出来なかったためか、かなり食べられた。私と能登谷さんは、本職は医師というミッシェルがガイドである。

２時１５分に一行では最初に出発した。氷河に下りきってから、雪の斜面に取りつく。かなりのペースだけどなんとか付いていく。なぜかライトが消えてしまったが、月が明るいのでそのまま行く。１時間半ぐらい所で５分ぐらい休んでくれ「You are good」という。「We go」で出発。

斜面が急になり呼吸が苦しくなった時、山崎さんと柳原さん、諸澄さんのパーティが追い付いてきた。山崎さんが「歩きながら聞いてください。歩くペースにあわせて複式呼吸してください。」とのアドバイス。１０回ぐらい深呼吸すると、すうと楽になった。そのうちに、先行者に追い付いた。ミッシェルは彼らを抜く。追い付いてこのぐらいだと楽だなと思っていると、また抜く。

氷混じりの斜面をトラバースするところで先行者が順番待ちをしている。岩を回り込む一歩がいやで、その上の氷混じりの急斜面にはバケツのようなステップがきられていた。前を行く能登谷さんがするする登るので、続いていく。そこが終ると緩やかな雪面になる。夜が明けた。雲が真っ赤になりきれいだった。

傾斜は緩くなったけど、体が重くなってきた。もっとゆっくり行って欲しいと頼むと、ミッシェルはザイルを付けなおし私を先にする。だらだらとした登りが長い。ひっぱられるように登る。

頂上は、冷たい風が吹き抜けていた。 8:05だった。すぐ山崎氏のパーティも着く。喜びの記念撮影。コスミックの小屋から 5:50 は　日本人としては速いそうだ。ミッシェルはその後、good time と何回も言ってくれた。

寒いので、すぐ下る。反対のグーテ小屋から、ぞくぞくと登ってくる。すれ違うのに、ミッシェルはコースを外してどんどん行く。こちらは人幅のトレースがしっかり出来ている。細い雪綾のレ・ボスさえコースを外す。バロの小屋に着く。立ち止まったので、チョコを口に入れるが、唾が出ず、食べられない。

小屋の中に知り合いの医師がいたと言う事で、その後小屋で１時間ほど休ませてくれた。中は鉄板が敷いてありアイゼンのまま入れるようになっていた。おわん一杯の紅茶とビスケットをもらった。おいしかった。

コルから、ボソン氷河にむかう。はじめは雪原漫歩という風情だったけど、行けども行けども、次々と雪原が現われ、さらにズタズタの氷河にな

った。飽き飽きした我々の気分転換のためか、安全な所でシリセードをしてくれた。２回目はミッシェルがトップ。怖いぐらいスピードが出る。能登谷さんはピッケルを落としてきてしまう。後続の、若い男性客を連れた女性ガイドが拾ってきてくれた。３回目は先行者が避けてくれた。

やっと氷河が終わった。岩がハングしていて落石を避けられる所で、休ませてくれた。ハーネス、アイゼン、ヤッケを外し身軽になる。さらに１時間花の多い道をハイキングして、再びロープウエイの中間駅にもどった。2:05。山崎さんたちが待っていてくれ、下で一緒に昼食を取った。なお、後の４人は１時間後に帰ってきた。

8月4日（日）晴　観光

一緒の朝食で、氷河上のロープウエイが動いていれば、それでイタリアへ、だめなら、赤い針峰群へクライミングを見学にと決まる。

これで３回目のロープウエイ頂上駅だ。さらに、エレベーターで展望台へ。モンブランは昨日のトレースが肉眼でもはっきり見えるのだ。写真を撮りながら、改めて長いと思う。マッターホルンもモンテローザも分かる。

ロープウエイで氷河を渡る。エルブロンネに近づくと、スキヤーが見える。イタリアとの国境のエルブロンネから見るモンブランは岩綾の山だ。スキーヤーと一緒のロープウエイで、　アントレーブへ。ヒッチハイクと徒歩で、さらにクールメイユールへ。ここで、偶然入ったレストランには日本語のメニューがあり、７人で４人分を注文した。２種類のランチを楽しみ、バスでシャモニにもどった。

8月5日（月）晴 ハイキング

５人は、山崎さんの運転で、レンタカーでグルンデルワルトへ。私は一人でバルムの峠へハイキング。ロープウエイを降りると、大きな牛が出口にいるので、恐々と行く。のびやかな草原で、冬はスキー場らしい。ロープウエイを使わず登って来る人も多い。杖を突きながらのんびり歩く人や、犬をつれた人もいる。コースは全部見渡せるという感じなので、不安は無い。ここでは日本人は全然見なかった。まわりの人々がコースを外れて、草原を悠然と歩いているので、私もあっちに白い花、こっちに池だとフラフラ歩く。残念ながら花は盛りを過ぎている。約３時間のハイキング。

8月6日（火）晴 ハイキング

全員でラック・ブランへハイキング。赤い針峰群の下の岩が多い道。モンブランの対岸になり絶好の展望コース。池に着くとレストランが点景となり、まるで絵はがきだ。氷河の上の鋭いピークがグランドジョラスというのは後で分かった。

この日の午後は、お土産を買う買物。スイスは物価が高いから、ここで買った方が良いとのアドバイスが山崎さんからあった。

8月7日（水）晴

ツェルマットへ中型バスで移動。三島山岳会の５人も一緒である。

8月8日（木）曇後晴 ハイキング

山行は中止と１０時に決定。後発隊と決まっている私は、諸澄さん佐藤さんと、マッターホルン下部のシュワルツゼーへ。この時ロープウエイの客は毎日旅行のツアーの人と我々だ。all japanese

北壁を眺めるはずだったけど、ガスがどんどん下りてくる。佐藤さんがまた、マーモットを３匹も見つけた。雷が鳴りだしたので入ったシュタッフェルの小屋のミルクコーヒーは　2.5 ドル（250円）でとても美味かった。ツェルマットに着く頃雨になった。

8月9日（金）晴 ハイキング

朝マッターホルンは純白に輝いている。先発隊は「岩の力を信じて雪は融けるとみて、２時に出発する。」という。

後発の４人と添乗員の二之宮さんと登山電車で

ゴルナーグラードへ。展望台へ登ると案内板があり、山名が分かる。モンテローザ、リスカム、ブライトホルンなど。昨日は真っ黒だったリンピッシュヒルンも輝いてる。ワイスホルンの方はガスが邪魔で見えない。シャモニの針峰より、我々には山って感じでいいなあと諸澄さんはいう。街は開放的で、シャモニのほうがいいけど。

昼近くになって、マッターホルンの東壁はかなり黒くなってきた。巨大なソーセージを食べてから、マッターホルンを眺めながら、1500mの標高差をツェルマットに下った。

8月10日(土)晴 ヘンリ小屋へ

午前中は山岳博物館と思っていくとなんと土曜日は休館だった。お土産を買って過ごす。

後発の4人は、3時にロビーに集合。ここでイーストツアーの宮田さんから、約束していたガイドの内、一人は足に怪我、一人はレスキューに出ていて、来れない。前発隊はガイドが二人だったが、小屋で一人探しておいたから、佐藤・白沢で組み、日野、諸澄は一人ずつで行くように。また登れたら、ガイドに昼食をおごり30SFから50SF以上のチップをやって欲しい。ベルベーデル小屋までは4人で行ってほしいといわれた。コースは昨日下見済みなので軽く受け合い出発。

途中で前発隊にあうのを楽しみに行く。4時半ごろ晴れやかに3人（一人リタイヤ）が下りてきた。固定ロープが凍っていて大変だったけど、体力的にはモンブランより楽だったという。7日の夜に会った白井氏（7日登頂、固定ザイルの所は異様な雰囲気だった、下部は懸垂で降ろしてもらえたのが助かったと言っていた）に比べると皆元気だった。ここで宮田氏に要らないと言われて置いてきたスパッツは必要だというので借りる。

ベルベーデル小屋の戸は体重を掛けないと開かないほど重かった。小屋の人に英語の得意な佐藤さんが予約してあるはずなんですが、と聞くと4 personn 3 guide の partyと言われたけど夕食時にはフレットとダニエルの二人だけだと分かった。夕食にガイド食とかの、8枚切りの食パン程のチーズに感嘆。我々のは、味付けが塩辛かったけど、スープ、鳥のソテー、グリンピース、バターライス、ジャガ芋、デザートがプリンだった。喉が乾いて水をがぶ飲みした。

夜、装備点検で、ゴアの雨具だけでは防寒具は不足と言われた。セーターは置いてきたのだ。北壁に出ると風が強く寒いのが普通とのこと、（実際は異常気象らしいけど暑かった。）また行動食は少なすぎると言われた。モンブランで食べられなかったので皆減らしたのだ。佐藤さんが聞く「I have 2 gloves wool and goretex。which is better ？」ダニエル　「goretex」

8月11日(日)晴 マッターホルン登山

3時起床と言われていたけど3時半小屋の人が起こしにきた時起きる。お湯が自由に貰えたのでテルモスに紅茶、水筒には2倍に薄めたジュースを入れる。4時にダニエル、白沢、佐藤で先にでる。すぐフレット、諸澄、日野で続く。

いきなり固定ザイルが出てきたけど、ハイキングとは言えないなぐらいのコースが続く。しかし、足の怠さがいつまでも抜けず、体調は今一だ。時々ダニエルがザイルをするすると伸ばす。傾斜が強くなり、必ずビレイピンがある所だ。よく整備されてると思う。一度固定ザイルの所で、岩に掴まって登ったら、ザイルをしっかり掴んで登れと注意された。また2回ほど「こう登るのだ」とお手本を見せてくれた。続いていくと「good」とほめてくれた。概ねコンテニアスの登りだ。登っている人は guidelessがほとんどだ。日曜日のためか、悪条件のためか（雪が多い）分からないが人は少ない。それを強引に抜いていく。日本人パーティはスタカットで登る部分があるので遅い。大阪から来たと言う人に「ガイド付きにはかない

っこ無い。抜かせてやれ」といわれた。彼にはツェルマットの本屋とゴルナーグラードで会っている。親しげに話し掛けられたのだ。

6:40 ソルベイ小屋に着いた。テラスで１０分程休む。日野さん達が追い付いてきた。ガイドが行動食を取るので真似する。モンブランより食べられる。さらに１時間ほど行ってまた小休止。再出発してしばらくすると、追い付いてきたのは、諸澄さんとフレットだけ。日野さんに何が起こったのか。我々の後を登る諸澄さんは余裕しゃくしゃくで盛ん写真を撮ってくれた。北壁に出るとさらさらした雪が着いている。固定ザイルに掴まって登る。アイゼン着けると楽なのになあと思うけど、ダニエルは登れ登れと上から引っ張るので仕方なく登る。固定ザイルは延々と続く気がした。

傾斜の緩んだ雪面を登りきると頂上だった。8:50。ガイドがにっこりと握手してくれた。暖かく展望は良い。写真を撮り、ヘットランプを外し、アイゼンを着け、行動食を食べ忙しい。ガイドがモンブランを教えてくれた。白井氏が言ってたように、白くて丸いから目立つ。

9:10発。帰りは諸澄、佐藤、白沢、ダニエルの順にザイルが繋がれた。諸澄さんが先頭で下りフレットがコースを指示する。固定ザイルの所も後向きで下りるとガイドが怒る。右足のアイゼンが緩んだと訴えても go と言うのでそのまま行く。ついに指が疲れてザイルを握った手が開かなくなった。上に輪になった鎖が下がる１m程の垂壁の所だった。鎖に手首を掛け、壁の真中の残置ハーケンを使って下りた。手が開かないと叫ぶと、佐藤さんが通訳してくれ、ダニエルは「しっかりビレイするから安心して下りろ」と言ってくれた。手袋を外すと、手が使えるようになった。固定ザイルにブルージックしながら確保してくれた。

左のアイゼンが外れたと訴えると、ダニエルはどかっと座ってアイゼンを外しだしたので、我々もはずす。確かに雪は少なくなった。雪が無くなるとフレットが先頭で引っ張るように下りた。

東壁に入って少し下りると、日野さんが居た。3時間待ったという。「行ってくるから待て。」と言う言葉を「待てば後で連れていく。」と聞いて「ＯＫ」と言ってしまったのだそうだ。彼女が「ＮＯ、私は登りたい」と言っていたらどうだったか。言葉が判る佐藤さんが一緒だったら？

日野さんを私の後に入れる。フレットが先頭でどんどん引っ張るから、この下り方は速い。頂上から２時間でソルベイ小屋に戻った。10分程休んで下る。すぐヘンルリ小屋が見える。しかしなかなか近づかない。ガイド同士で何か相談したと思うと、ガレばを下り始めた。登りとは違うコースだ。左手下には、懸垂で下りているパーティが見える。アルプスは下山が辛い。長い長い下りだ。

1:30 ヘンルリ小屋に着いた。ここでスパゲッティを食べたダニエルは、短パン、Ｔシャツ、ジョギングシューズに変え、駆け下って行った。シャモニに帰るらしい。我々は、3:00 までのんびりした。なんと香取さんが現われた。

3月12日（月）晴　ハイキング

６人で　Saas Fee　に行く。昨夜からツェルマットには日本人が溢れるように増え、もっと静かな所へ行こうと決めたのだ。ティシュから８人乗りのタクシーでSaas Feeまで１時間１３０ＳＦだった。Saas Feeは同じく車を締め出した、氷河の見える小さな街だ。標高 1700m 牛が放牧されている。ツェルマットでサラダに飢えたので、肉屋で色とりどりのを見て、競うように買いぶらげてロープウェイへ。

さらに氷河メトロでミッテルアラリンの雪の世界へ。アラリンホルン、アルフーベルが白く輝くがドームは黒い。展望レストランのテラスで昼食とする。氷河のスキー場を見た柳原さんは、レンタルを見に行ったが、ウェアーが無く諦める。

フェルスキンに戻り、氷河の上をブリタニア小屋まで歩く。登山靴でなかった高橋さんは Saas Feeに戻る。時々水が流れていたりする氷河の緩い登りだ。日本人はいないが、スカートに登山靴の人や、犬を連れた人もいる。

赤い窓が目立つ小屋に着くと、モンテローザ、リンピッシュホルンが見えた。クライネン・アラリンホルンに登ってから、ロープウェイのあるブライトエンまで、山腹を巻くハイキングコースを行く。花が綺麗で楽しかった。全部で約3時間。

Saas Feeでは、タクシーを探すまで一騒動。電話で呼べると分かり、また、佐藤さんの出番。帰りは何故か１００ＳＦだった。

8月13日（火）晴

再びバスでチューリッヒへ。夜、皆で入ったレストランの、ソーセージとジャガ芋とビールが美味しかった。

8月14日（水）晴

フランクフルト経てソウルへ。機内食が４回も出た。さらにソウルでも出て、ジュースがストレートでは無く甘味料入りになり、日本近しを実感した。ヨーロッパのは美味しかったのだ。

8月15日（木）晴

新宿行きの成田エクプレスの切符が買えた。

参加者　高橋祐一郎（所沢市）　柳原徳太郎（名古屋）　諸澄幸男（八王子）　香取幸生（岐阜県）　日野美紀江（山口県）　能登谷善子（藤沢市）佐藤道子（武蔵野市）　白沢光代（川崎）

イーストツアー費用 748000円　全朝食　２昼食　３夕食　ﾓﾝﾌﾞﾗﾝ、ﾏｯﾀｰﾎﾙﾝガイド付

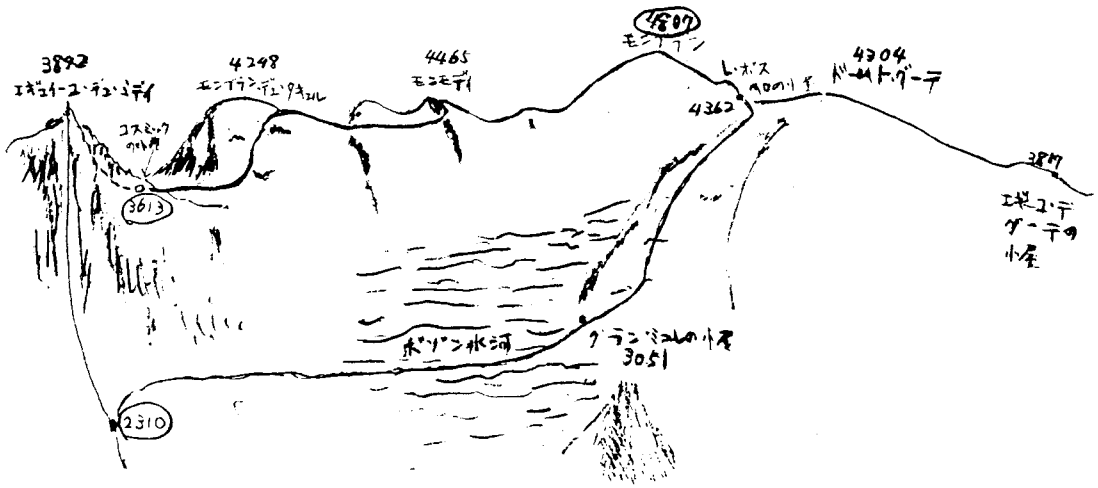
総括

山もホテルも街も綺麗でした。

ガイドつき登山は、登らせてもらったという感じです。彼らがスピードのみ追求するので違和感がある。でも、お陰で疲労は少なかったかも。

ハイキングは花を見るには、今年は１月ほど遅かったと言う事もあるのが少し飽きた感じです。

幸運でした。雨に降られたのは２日だけ。それが山では雪で、白く輝くピークが見れました。

男女４人ずつ、というのも良かった。ハイキングにも一緒に行ってくれる人がいつもいたし。単独行もしたし。またビデオを撮ってくださった高橋さん、写真をフィルム３０本も撮ってくださった諸澄さん、英語が話せる佐藤さん。ありがとうザイルパーティにも、ガイドにも恵まれた。

モンブラン全員登頂　good。マッターホルン６／８（イーストツアーでは標準らしい。前回０、悪天のため。前前回　７／１０。1991年）